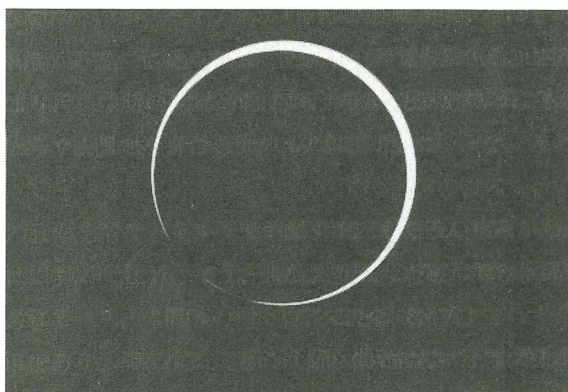


沖縄の金環日食観測の速報

山口 正 博

1987年9月23日(木)秋分の日に沖縄本島の全体を包んだ金環日食が起った。これは1958年4月19日(土)に種子島、八丈島で見られた金環日食から29年5カ月ぶりに日本の国内で見られる金環日食として天文学愛好家の間で重要視されていた。20世紀に日本を通る金環日食は今回が最終で、次回は25年後の2012年5月21日(月)に九州、四国、紀伊半島、東海、東京、房総半島を通る金環日食が起る。

今回の沖縄の金環日食は、前日の9月22日(火)は雲が多い時々南国特有のスコールのような雨が降る天候であった。しかし23日(水)の日食当日は朝から晴天に恵まれた。秋分の日とはいえ、東経 $127^{\circ}40'$ ~ $128^{\circ}20'$ 、北緯 $26^{\circ}05'$ ~ $26^{\circ}50'$ という位置にあって、東京より経度は 12° 西、緯度は 9° 南にある沖縄は、太陽の光は強烈で真夏の日射しであった。折から沖縄県での国民体育大会(国体)も開催されており、特に金環日食の中心線が通過する万座毛^{まんざもう}と恩納村^{おんな}には、日食観測者と観光客が約2000人集まってにぎわった。また中心線が通過する伊計島^{いけ}、宮城島^{みやぎ}へも沖縄本島から橋がかかっている車で渡れるので、ここにも日食観測隊が50人ほど入った。中心線の上になくても、これに近いムーンビーチ^{さぼみき}、残波岬^{さなみ}などをはじめ、沖縄市、那覇市、糸満市などホテルや宿泊施設の多い所には、日食観測の人たちが多数集まった。日食は9h50m12sに太陽の上側から欠け始め、11h23m20sに金環食の始まり、11h25m00sに最大食(クライマックス)、11h26m30sに金環食の終りと約3分間の天体のショーを楽しんだ。13h03m50sに日食は終わった。時折り雲がかかった場所もあったが、全体として今回の沖縄の金環日食は晴天に恵まれて観測は大成功であった。



沖縄金環日食(残波岬で観測)

1987年9月23日 11h26m(第3接触)10cm屈折赤道儀
f=1600mm直接焦点撮影 ペンタックス SP1/30秒 コニカカラー-GX100
撮影/白河天体観測所 大野裕明